

ずいそろ／＼二題

早婚

あれこれ

青木重雄

「早婚ばかり」は、どうやら今日の世界的傾向らしく、アメリカでは十七才の少女六人のうち一人がミセスだし、十九才の四十パーセントが亭主持ち、西ドイツの娘さんは、五人に一人が、二十一才以下で結婚している。イギリスでも十八才以下の花よめが、一九四〇年代には全体の二・二パーセントだったものが、一九五八年には四・四パーセントにふえている。先般来日したアメリカのロバート・ケネディ氏も一九才で十六才の

エセル夫人と結婚、七人のこども持ちだ。とにかく、近ごろのことは肉体的にも精神的にも早熟になつてきているから、結婚するのは当然の成りゆきということだろうが、何事もよい面があれば、片方には悪い面があるもので、いくら若い世代が「いかなる核兵器やイデオロギーといえども、愛情にもとづく両性の結合をはばむことはできない」とりきんでも、困った問題もかなり出てきているようだ。

アメリカでは、学業年齢と結婚年齢の一致が、大きな社会問題の一つになっているし、イギリスでは、早婚夫婦の欠点として、りっぱな家庭作りの責任感が缺けていること、経済的基礎が弱いこと、享楽主義的傾向に走りやすいことなどがあげられ、また住宅不足や収入不相応な家具などを買うことなどの悩みが問題となつている。こうきくと、昔と同様今日でも、ただ「ホレタ、ハレタ」だけでは満足な結婚生活はいとなめぬとい

うわけにならう。

そのためか、欧米諸国より所得の少ないわが国では、一時はやつた「早婚ブーム」もやっと落着いた感で、年々初婚年齢も上昇気味……男二十七才、女二十四才という現状である。これ以上結婚年齢が遅れると、戦前とあまり変わらぬことになりそうだ。このため男女の結婚の内容までが、昔風の形式主義的なものに戻つては困りものだが、早婚ブームの少々浮ついた考え方が落ち着きを展して「堅実」になつてきたことは、認められてよいだろう。

以上は、わが国の結婚の現状報告だが、といっても、私は決して早婚が悪いとか、早婚組にブレーキをかけようとしたわけではない。私自身も、昔は一日も早く意中の女性と一諸になりたい、と内心大いに悶えた一人なのだ。ところが戦前は今日ほど一般の理解も乏しかったし、第一世の中が何もかもノンビリとできていた。あせつて結婚するより、まず恋愛に浮き身をやつすか、一部の連中は赤線の子でセックスを満足させるか、ヤセがまん？を云つて「女嫌い」のようなフリをするか——どの青年も、これからのうちの一つに自分の性を賭けたものだ。行く手に兵隊という、若い男にとっては宿命的な難関が待っていたことも、私

たちの対女性観を複雑にしていた。ヘタな恋愛をして「めめ（女々）しい奴だ」と笑われたくないといった、今日の青年には理解されそうもない軍国主義ムードが、すべての青年の周囲に漂っていたことも否定できない。

だが、私の専門学校時代のクラスメートにも二十一才ですでに美しいメツチェンと学生結婚をしていた幸福者がいた。二人は神戸のYMCAで劇をやっていた夫婦で、同級生一同を大いにうらやませたものだった。性の悩みもなく？一諸に勉強し、芝居をしている二人の姿に私たちはどれだけ憧れたものか！恐らく現代なら私自身、何のためらいもなく当時の恋人と結ばれていたことだろう。

こう考えると、早婚組に水をさすどころか、大いに早婚賛成と両手をあげたい。ところが、今日の早婚組の中には、早婚ブームという流行現象にただ溺れたマネごとから、いたって安易で、そのうえ享乐的で、手垢によれていてといった迎合派が案外多いのではないかと思うと、どうも素直に賛成できぬ気もしてくる。反発心までおぼえるのも、あなたが私の現在の年齢からだけでもなさそうだ。こんなことをいうと若い人々から非難されそうだが、実感だから仕

方がない。そこで「現代の若者よ大いに早婚すべし。ただ、他人がやるからといった流行心理だけでやるのなら、早婚すべからず」——この矛盾した言い方が、私のいつわらぬ今日の早婚への「本音」であり、同時に心からの「忠告」でもあることを、白状せぬわけにはゆかない。

（神戸新聞論説委員）

マドリッドの 羊料理

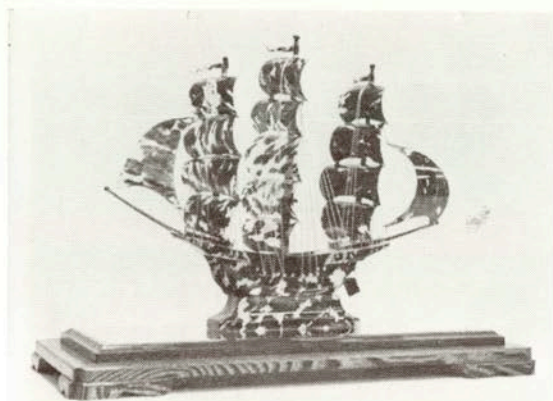
鴨居 玲

私は余り食物には特別興味を示さないが、気に入ると朝から晩まで同じ物を一ヶ月程続ける習慣がある。又砂糖と塩を間違えたりするし、適当に日本の男性を使い分けたりする人間だから、この「結婚特集号」にとうい登場出来るような人物ではありません。

だから外国で特別食物に思出はないが、パリでレモンをしぼってかけて食べた蠣の味だけは今でも

忘れられない。それとスペインのマドリッドに行った時、フラリと飛び込んだホテルとは名ばかりの宿で、その下の階はフラメンコの学校、若い娘さん達がカスターネットに合せてレッスンをしている。その響きを聞き乍ら食堂に入ったやがて肉の料理が運ばれたが、例のスペイン語は機関銃のようでもう料理の説明をしているらしいが何の肉か判らない。フランス語も英語も生憎その給仕のマダムには通じない、そこでお手のもの絵を描く事にした。牛を描く、「ノン」豚、「ノン」馬、「ノン」魚、「ノン」少々私達は慌てて来た。羽ばたくまねをして鳥か？と聞いても違うらしく、その中に相手が床をチョコチョコとはう格好をし、手と体をくねらせて、「ケエケケ……」とスペイン語で鳴いた。蛇は鳴くはずはなし、さては蛙か、何を食べさせられるのか大へんな事になったと覚悟を決めたが、出て来たのは羊だった。羊がケエケケ……と鳴くとは全くあわてさせるにも程があると二人共胸をなで下したが、今でも肉屋の前を通る度に、フトスペインの肥った食堂のマダムの姿を思出す。ただ食べ物でロマンスに連なる想出のないのを少々残念に思っています。

（洋画家）



センスあふれる

べつ甲の専門店

元町一丁目

太田肇甲店

③ 6 1 9 5



御婚礼お仕度

ピンパーム

Maxine

マキシン美容室

三宮神社前・TEL③4917

高級紳士服専門店 (神戸クーポン歓迎)
オーダーメイド・イージーオーダー・レディメイド

神戸テラー

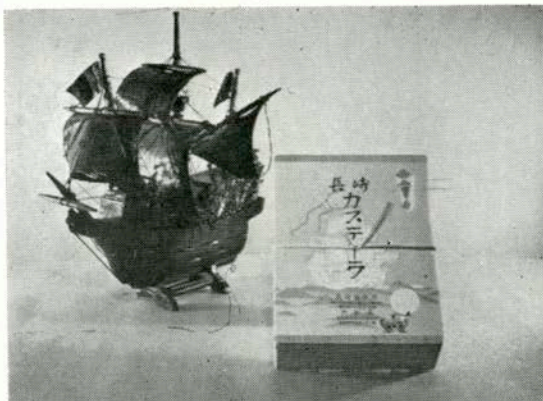
生田区北長狭通2 (省線高架通50) ③ 2 8 1 7

春 来 たり な ば……

東京洋品の店

子 秋 庵

元町4丁目 ④ 6 9 5 9



いつでも贈って喜ばれる

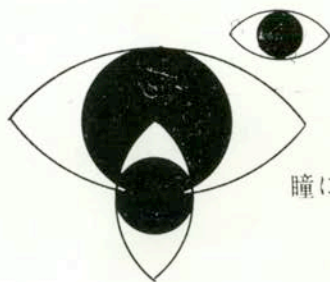
風味豊かなカステラ！

＜元町6丁目＞

長崎堂本店

本店7—4402元町4—4130

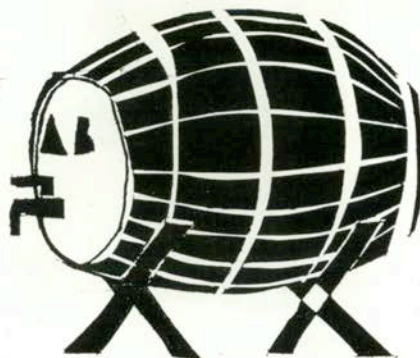
直売店 神戸大丸・阪急



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL(22)8161・8361



世界の洋酒の店

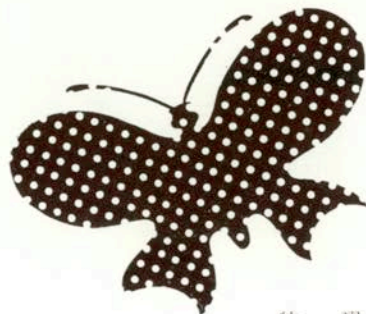
ABハチ

元町2丁目 TEL ③2798

神戸店・トアロード ③二二九三
大阪店・心斎橋ロビー(211)一〇四四

芸 げ い む 夢

コスチューム
アクセサリーの店



特 選
ハンドバック専門の店

シラサ

③ 0813
元町2丁目

今年のブラウスは
デキシールランド
チェック!!



KOBE

SUGIYA

ハンカチと下着の店

トア・ロード TEL ③3436

毛皮の店

ウエタ

元町2丁目 ③0686





③

2

9

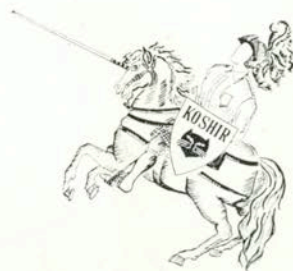
9

6



元町2丁目

YE AULD SHIRT SHOPPE



よろず御襯衣仕立處

神戸シャツ

神戸大丸前 TEL ③2168

RED DIA BRAND

男子
洋品
の店

神戸屋

元町1③21689

オリンピックにさがけて
世界をかける三恵の紳士服

三恵洋服店

元町四 ④七二九〇





マダム コンパンワ

ムーンライト

月に十軒もふえるバー。店の名にも困ってくるわけだが、新鮮さが失なわれない名前はムーンライト。感傷的でモダンともいえ、古き良き神戸を愛する人たちは、その二十五の歴史の魅力から脱け出せないようだ。

◆夜十時、煙と外国語と美女の体臭とムード音楽がたけなわとなる頃、客席の中ほどで眼を閉じてコックリしている和装の中年の女性―それがマダムである。ほんとうに眠いのだというような無邪気な顔の下には、夜の財界に君臨する女王は姿を消している。

◆それにしても元気だ。若い。ハンディ二十六のゴルフも健康法なら、休まずに店へ出るのも心の支えとなるのだろう。社長族にも国際人にも『安心して飲める雰囲気』というネライは的を射ている。決して勘定は高過ぎない。

◆棚の洋酒のコルク栓人形は、去年のヨーロッパ土産。そして大阪生れのご寮人さん気質は、包み紙一枚粗末にしないが、店の経営に限界を認めているあたり、事業家としてのカンはずばらしい。運勢はこんごも着実上伸とあるが男性に生まれていたら……。

(ナン)

ショート・ショート ①

かたきうち

陳 舜 臣
松 本 宏



先日上京したとき、私は野球評論家佐伯一夫の家へ遊びに行った。ちょうどその日、彼のところへ『神戸っ子』から手紙が着いた。

神戸について『忘れられぬ思い出』がありましたら、それをテーマに四百字詰二枚ほどの玉稿を賜りたく云々……

佐伯はこの原稿依頼の手紙を読んで、

「とんでもねえ注文をしてきやがった／＼」
と、渋い顔をした。

私はハッとした。プロ野球随一の剛球投手だった佐伯が五年前に引退したのは、神戸で足の骨を折ったのが原因なのだ。彼が神戸に『忘れられぬ思い出』があるのはたしかだが、それは決して愉快な思い出であろうはずはない。

「ひでえ野郎だな、この『神戸っ子』って雑誌の編集

長は」と、佐伯は毒づいた。

「野郎じゃないです」と私は言った。「かわいいお嬢さんですよ」

「女か……」と呟いて佐伯は目をとじた。五十嵐恭子さんは勉強家だが、惜しいことにプロ野球の事情にはうまいのだらう。だから佐伯に神戸の思い出をきくという大失態を演じたのだ。とにかく私は彼女を弁護してやらねば、と思った。

「とてもいいお嬢さんでしてね……」

しかし佐伯は相変らず渋い顔で、「女ってやつは……」と吐きすてるように言った。

「いやだったら、断わればいいんですよ」と私は言った。佐伯は曆く考えていたが、

「もう五年になる。昔の事だからおれもそんなにこだわらねえや。しかし原稿用紙二枚は短かすぎるな。話せ

ば長い物語なんだ。それにまたさしきわりがあるし……」

だろうと思ったのだ。……いや、内心、あたれば痛快だろうとは思った。たしかにそう思っていた。

それから佐伯は『骨折事件』の真相を話してくれた。当時は『階段から落ちて大事な足の骨を折るなど、プロ選手にあるまじき不注意』と、世評は佐伯にきびしかった。それに一言の弁明もしなかった佐伯は、えらい男である。真相をきいて、私は感心した。

つまり、こういうことを考えているうちに、彼の投球フォームが崩れたのである。

つぎに佐伯からきいた話を書こう。さしきわりがあるので、登場人物はすべて仮名を用いた。これは佐伯のつけた条件である。

佐伯はスランプ脱出法を考えた。

あの年のベナント・レースで、東都エレファントのエース佐伯は、西都シャークスの主砲、四番バッター山村に死球を与えた。

山村にすまないという負い目が、スランプの最大原因と考える。その山村はもう元気だそう。だから山村を見舞いに行つて、その元気な様子を見れば、安心できるだろう……

早くとび出した連中が山村を囲んで介抱し、おくれたやつらは、マウンドの佐伯めがけて突撃した。それよりさきに、エレファント軍の同僚が人垣をつくって佐伯を護衛した。あわや大乱闘というところで、審判や両軍監督が双方を引きわけた。

デッド・ボール直後、一度病院へ行つたが、それ以後一カ月半も会っていない。新婚の山村は神戸の義兄の家の二階に新居を構えている。場所は六甲だときいた。

山村が倒れたとき、シャークスの全員がとび出した。早くとび出した連中が山村を囲んで介抱し、おくれたやつらは、マウンドの佐伯めがけて突撃した。それよりさきに、エレファント軍の同僚が人垣をつくって佐伯を護衛した。あわや大乱闘というところで、審判や両軍監督が双方を引きわけた。

大阪で雨のため試合が中止なつた日に、佐伯は山村を訪問することにした。

山村は全治二カ月、そのシーズンは出場不可能となつた。ところが佐伯も、この試合以後ひどいスランプに陥ってしまった。大阪で連続ホームランをかまされ、九州では五球なげてKOされたこともある。さんざんな態ならくだった。

山村はカリリとした性格の男である。佐伯が訪ねて行つても、ひよつとすればどなりつけるかもしれないが、思い切りどなつたあと、まあ一杯やれとビールを出すのがオチであろう。佐伯が心配したのは山村夫人である。会つたことはないが、スポーツ雑誌のグラビアで見るとほっそりした人形のような美人で、いかにも神経質そうだった。彼女からうらみつらみをならべられるかもしれない、と佐伯は一応覚悟した。

「おい佐伯」と監督は言った。「山村のことを気にしてるんじゃないかな？ あいつはもう元気になつたっていうぜ」

「山村はいま風呂なんですが」その山村夫人は、『佐伯』の名をきいても動揺の色もみせずに応じた。

佐伯は自問自答してみた。気にしているのか？……：やっぱり気になるんだ。

「すぐにあがると思いますが、どうぞお掛けになつて」階段をあがったところを応接間にしているが、そんなに広くない。すめられた椅子は、うしろがすぐ階段になっていた。

山村には四ホームを浴びせられている。まるでカモにされているようだった。山村はいつもホーム・ベースにかぶさるようにして投球を待つ。そのときの不敵な面がまえ。佐伯にとつては一ばんいやなバッターだった。

「山村君いかがですか？ すっかりよくなりましたそうですね」と、佐伯はおそるおそるたずねた。

あのボールは手がすべったのか？ いや、あてるつもりじゃなかった。山村ほどの打者なら、とびのいて避ける

「ええ、おかげさまで」そう答えた山村夫人の目は、なにか虚ろな感じだった。

「もう出場できるのでは？」と佐伯はたずねた。

「もう出場できるのでは？」と佐伯はたずねた。

山村夫人はゆっくり首を振って、

「まだときどき発作が起りますから」

「発作？」と佐伯はききかえした。

「そうです」山村夫人の言葉はさっきからすこしも抑揚がなかった。

「どんな発作ですか？」

「突然ね、兇暴性を帯びて、手あたり次第に殴りつけますのよ。でも、ほんの一分か二分でおさまります。……発作中は、本人は意識がないようです。誰かれの見さかいいません……あたしにだつて……」

山村夫人はかすかに眉をしかめた。

「それはそれは」山村はそれが自分のせいであることを思つて憂鬱になった。

「しよっちうなんですか、その発作は？」

「まえは週に二度。そのうち一度になりました。いまは十日に一度くらいでしょうか。でも、ここ十日ばかりは発作がございせんよ……お仕事の関係で、ほらバツトが沢山置いてあるでしょ。発作が起るとそのバツトをつかんで……」

「それは大へんだ」佐伯は言った。「山村君に力まかせにぶん殴られたら命はない、」

「でもね」山村夫人は人形のような表情をかえずに言った。「発作の直前には前ぶれがございすの。……両手の手首を振って、それから手足の屈伸運動。それがはじまると、あたし、どこかへかくれて、鎮まるまで待つのですよ」

公式戦の最中、突然発作をおこした山村が、バツトで捕手や審判を殴りつける場面を想像して、佐伯は寒気をおぼえた。

「それでね」と、山村夫人はつづけた。「体のほうはすっかりいいのでございますよ。でも発作が完全になくならないうちは、試合に出せませんでしょ。お医者さまはあと二、三月で発作は消えるとおっしゃって下さいましたが、まあ、来年のシーズンからですわね」

山村の不思議な発作。これも佐伯の責任だ。彼はやるせない気持になった。

「もうそろそろあがつてくると存じますが」

山村夫人はそう言つて奥ゆかしい物腰で席をはずしたしばらくして山村が浴衣姿であらわれた。

「やあ、佐伯か。珍しいな。ところでこのごろ、ええとこないやないか。どないした？」

『野武士』の異名をとっている山村は、いつもの豪快な笑みをうかべて大声で言った。

「どうしてもだめだ。うまく行かん。完全なスランプだ」と佐伯は力なく答えた。

「もしかしたら、おれのことを気にして、それでスランプになったんとかうか？」

「いや……」

「もしそうやったら、心配するな。おれ、なんとも思（おも）とらんよつてね。プロの選手やないか。死球の一個や二個、ピッチャーでも、バッターでも気にしとつたら飯（めし）くえんがな」

「ありがとう……」と言つて、佐伯はひよいと山村を見あげた。

山村はさかんに両手の手首を振っていた。

それから、手足の屈伸運動をはじめた。

壁にはバツトが三本立てかけてあった。

これからはじまると山村夫人でさえ避難するのである、山村の手がバツトのほうへ伸びかけた。

佐伯は「あッ」と言つて、椅子から立ちあがり、逃げ道をさがした。

正面には山村ががんばっている。逃げ道はうしろの階段しかない。佐伯はあとすぎりした。……が、彼はあまりあわてすぎていた。で、足を踏みはずしたのだ。

ド、ド、ド、と物すごい音をたてて、大きな佐伯のからが階下までころげおちた。

「どないしたんや？」山村は階段を駆けおりて、佐伯を抱きおこした。



佐伯は呻き声をあげた。足の骨が折れたと彼はとっさに感じた。大へんな痛みだ。

「どうやら、足が……骨が、やられたらしい……」と言って、佐伯は喘いだ。

「とにかく医者へ行こう。すぐこのさきに、おれのかかりつけの病院があるんや。……ま、おれが負うて行つたる」

山村は佐伯を背負った。いつのまにか山村夫人があらわれて、二人のために玄関の戸をあけた。

「たい、どないしたんや？ 急に階段からころげ落ちたりして」

山村が背中の佐伯にたずねた。「だって……きみ、手首を振ったり、屈伸運動を……その……」「屈伸運動？ おれは風呂からあがったら、かならず気のすむまで手首振って、屈伸運動をするんや。お客さんが来とつてもや。スポーツマンの心掛けやからなこいつは。そやけど、それがどないしたんや？」

「いや、なんでもない……あッ、いた……」

六甲山がすぐそこにセマっていた。雨はあがっていたが、風がつめたかった。六甲おろしというやつだろう。

「なあ、山村」痛みをこらえながら、佐伯は言った。

「あのデッド・ボール、ほんとにうらんでいないだらうな？」

「あたりまえや、」山村は叱るやうに言った。「なんや、いまごろそんなこと、」

「きみはうらんでいないだらうが……」

ここまで言って、佐伯はあとの言葉をのみこんでしまった。

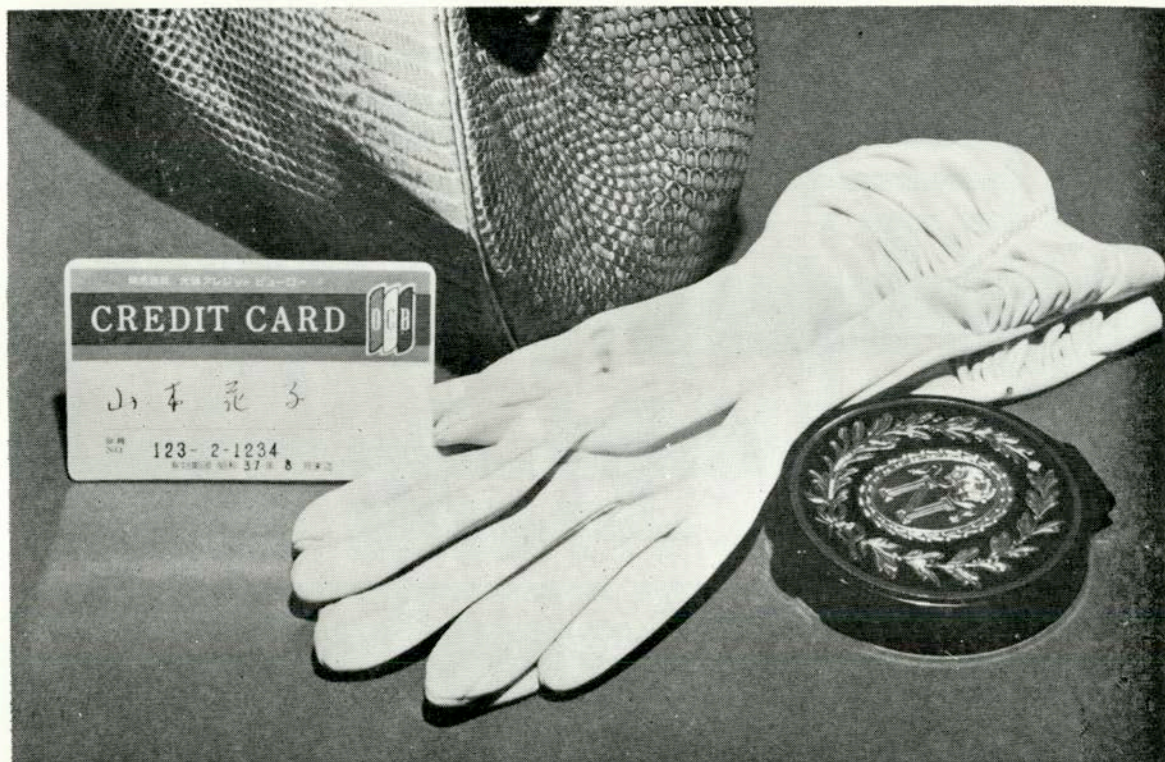
「——けど、きみの奥さんは、ずいぶんぼくをうらんでるらしいなあ。」

さすがにこれは口にすることができなかった。

以上が佐伯の神戸における「忘れられぬ思い出」である。話し終えて彼はもういちど、

「女てやつは……」と呟いた。

(作家)



スマートな近代生活にマッチした クレジットカード！



●すべてサイン一つでお支払はOKです
春のお買物に、ご旅行・ゴルフ・ドライブに
クレジットカードをご利用下さい

※詳細お問合せはOCB又は
三和銀行本支店へどうぞ

株式会社 大阪クレジットビューロー

大阪市南区順慶町通1-41 (電話大阪261-1777-1779)
神戸市中央区八幡通5-6 松竹ビル (電話神戸22-7340)

編集後記

春々。たのしい春の訪れがやってきました。月刊「神戸っ子」は、今月で満一才の誕生をむかえました。この一年間、「神戸っ子」はみなさま方の限りなき愛情と激励に支えられながらしあわせな歩ゆみが続けてくることが出来ました。ほんとうにありがとうございます。これからもいっそうがんばります。みなさまも、これまで同様、よろしくご指導くださいますように…。

トが始まりました。ご愛読下さい
・座談会「神戸ときもの」―きものをお召しになれる方が多いシーズンをお知らせしたので…、殿方のきもの姿はなまめかしく、初々しく見えるとか、殿方の間にきものブームが起りそうですね（おこわり）毎号、ご好評いただいています阪本勝氏の「れんさい随想」は、同氏のお仕事の都合で今月号に限り休載させていただきます。

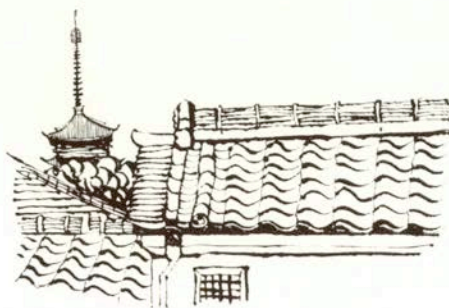
月刊「神戸っ子」案内

☆月刊「神戸っ子」を毎月御購読下さいます方、神戸を離れているお友達にプレゼントなりたい方は編集室宛にお申込下さい。6ヶ月分・500円（送料共）

☆誌上紹介の各神戸の銘店にはお客様へのサービス品として「神戸っ子」がおかれています。

☆「神戸っ子」をお求めのさいは左記の本屋さんでどうぞ。

文洋堂・国際会館1階
海文堂・元町3丁目
漢口堂・京町筋角
日東館・大丸前
流泉書房・センター街



神戸と女性

上野純子さん（19才）は日本スケート界のホープとして東京オリンピックでの活躍が期待されている。スケート生活は今年でまる9年、その間に上野さんは全日本選手権に4連勝したのをはじめ関西選手権では7連勝するなどすばらしい成績を残している。またアメリカやヨーロッパで開かれた世界選手権大会にも日本代表選手として再々出場している。得意とするのはスクール。幼稚園から高校までを甲南で過ごし、現在は関西学院大2年在学中、健康で明るい素直なお嬢さんである。

撮影 杉尾友士郎

A-180型



太陽熱を利用！
真夏で70℃…冬でも35℃…

* 太陽熱で
お湯をわかそう！



セキスイの自動給湯設備

セキスイ

ヒーター

A・180型 / 28,000円

〈工事費用は別です〉

● 手軽でべんりなホーム・ボイラー

お風呂に…お洗たくに…燃料費がグッと安くなります

プラスチックの積水化学

山若森百宮松古福中直永田田滝堀白阪古後久小小木嘉川金大^曾岡岡牛横青
 口杉崎崎地井川富西木井中村川崎川本林藤保林磯下納西井淵根部崎尾並木
 泰子辰義高虎芳 太達健孝勝二 喜本甚芳良 正 元ツ真伊真吉正重
 弘慧三雄二男夫美勝郎七郎介二郎渥勝榮二郎夫平繁治英彦^{トム}造子一郎一雄

発行に色々と
 お世話いただいた方々

- 本誌広告により広告主へ直接御注文やお問合せの際は「神戸っ子」広告による旨を書き添え下さい。
- 広告主の住所不明な時は「神戸っ子」編集室にお問合せ下さい。お取次いたします。
- 「神戸っ子」には掲載御希望の向きは「神戸っ子」営業部宛御照会下さい。「神戸っ子」編集室

Hino **コンテッサ**

神戸日野自動車

TEL. ④5771～5



お嬢さま 若奥さまの

ヘアー・スタイルの目立つ季節になりました

ヘアー・ペットは手軽にお求めいただけるお値段です。ご家庭でヘアー・スタイルが自由に出来るヘアー・ペットをご愛用下さい。

M H - 1 型

正価 6,800円



ヘアー・ペット

ヘアー・ペットのお求めはお近くの行き届いたアフターサービス
のナショナル連盟店で

